



# 日本イーストウエストセンター同友会

## The Japan EWC Association

ニューズレター 第12号

### ご挨拶

川 畑 泰



昨年12月の総会で、思いもかけず、三和義彦会長および皆様のご推挙により、日本イーストウエストセンター同友会 (Japan East-West Center Association) の会長をさせて頂くことになりました。会の名誉ある伝統を考えますと、緊張するばかりですが、皆様のお役に立つことができますよう、全力を尽くしてがんばりたいと思います。同時にこの2年間誠心誠意、会のために貢献して下さいました三和前会長に心からご苦労さまでしたと申し上げさせていただきます。

会の目的は会員相互の交流と親睦を深めることであると考えます。2年に1回発行される会員名簿と、年に2、3回発行されるニューズレターがこの目的に役立つものとして大事な役割を果たしております。昨年3月に皆様にお送りしました名簿には約1,000名の会員が掲載されておりますが、207名の方から会費を納入いただきました。心より感謝申し上げます。名簿がさらに充実したものとなりますように、皆様のご協力をお願い申し上げます。昨年はデータベースからレーザープリンターにより直接原版を作るという方式によりコスト削減につとめましたが、本年1月には郵便料金が大幅に値上げされました。さらに多くの方から会費納入があれば、誠にありがたく存じます。

1992年に新しい試みとして、当時の三和会長

のもと、京都で9月20日に総会がもたれました。また1993年11月5、6日にはEWC 沖縄同窓会の方々の主催により1993年 EWCA 地域大会が那覇で開かれました。このような機会を通して各地からのEWC 同窓生が交流を深めたことは素晴らしいことでした。いつも顔を合わせるというわけにはまいりませんが、ニューズレターが皆様の交流の場になりますよう、さらに努力したいと思います。頁数にも限りがあり、難しいところがあるかも知れませんが、皆様のご活躍の状況などをニューズレターにお寄せいただければ幸いです。沖縄の地域大会におきましては、日本EWC 同友会より30万円、同幹事会有志より15万円を、EWC 沖縄同窓会に寄付させていただきました。地域大会の報告は別記で書きましたのでお読み下されば幸いです。本年は1992年と同じく、東京以外の地で総会を開くことの可能性を探るつもりでおります。また、会員相互の交流と親睦の一助として各界の方々をお招きして講演会、懇談会を催すということをご過去何回かやりましたが、これからもこのような企画が実現するよう努力を続けるつもりです。

この4月には East-West Center の President でいらっしゃる Oksenberg 博士が来日されると聞いております。博士来日の時、同友会としてどういうことができるのか考えたいと思います。出来る限りにおいて、Center への協力を深めた

いと考えております。

最後になりましたが、長年に亘り会員名簿の作成に尽力された担当者の方々に敬意を表し感謝申し上げます。またニューズレターの作成・発送に携わってこられた幹事の方々、名簿・ニューズレターに広告などを通じご協力いただいた

た諸企業に感謝したいと思います。

会の更なる発展のために、会員の皆様の御支援とアドバイスを心からお願い申し上げます。  
(川畑泰：1975-76 East-West Communication Institute、アメリカ研究。現職、ジャパン・タイムズ報道部長)

## 1993年度総会開催さる

去る12月11日(土)午後5時から東京・学士会館において1993年度日本イースト・ウエストセンター同友会総会が開催され、出席者17名、委任状多数をもって成立しました。冒頭三和会長から、沖縄のEWCA 地域大会が沖縄EWCA同窓会の主催により成功裏に行われたことが報告されるなど、1993年度の事業報告が行われました。沖縄EWCA同窓会からは、はるばる石島英会長がかけつけられ、多数の沖縄在住同窓会員の協力のもと260名の参加者をえて大会が無事終了したこと、また、日本EWCA同友会ならびに会員・幹事有志による寄付に対して感謝の意を表明されるとともに、同友会に対して感謝状を贈られました。

引き続き、名簿・ニューズレター担当の中村幹事からは3月に名簿の改訂版を発行したこと、また3月・9月にニューズレターを発行したことが報告されました。事務局からは1993年度会

計が報告され、207名の会員から会費納入があったこと、また名簿発行にあたっては、JR東日本をはじめ多くの企業から広告を載せていただいたことなどが報告され収支が承認されました。

総会終了後は本会幹事で、読売新聞社調査研究本部長飯沼健真氏による「今後の日米問題」と題する講演が行われました。講演の中で飯沼氏は、ポスト冷戦時代を迎えて日米が新しい時代に入っていることをふまえ、日米双方とも民間活力を生かすような改革が不可欠であると指摘されました。また、日米協議の舞台裏などにも言及されながら、これまでの外圧依存型国家から脱却することが日本の課題であると述べられました。豊富な海外経験にもとづいたお話を出席者一同、興味深くうかがうことができました。

久しぶりにご出席の方も多く、なごやかな歓談がつづき8時すぎ散会しました。



1993年度総会出席者

特別講演：飯沼健真氏

## 日本イースト・ウエストセンター同友会会計報告—1993年度 (1992年12月1日～1993年11月30日)

項目	支出	収入	内訳
<b>収入の部</b>			
繰越金		999,299	
銀行口座			475,212
中期国債ファンド			304,373
郵便振替口座			78,334
郵便振替口座(2)			69,700
手持ち現金			71,680
会費収入		1,021,000	
	(本部：5,000円×200名)		1,000,000
	(支部：3,000円×7名)		21,000
中部支部より払い戻し		4,000	
利息収入		6,371	
広告収入(JR東日本)		100,000	
広告収入(ジャパンタイムズ)		50,000	
広告収入(研究社)		50,000	
広告収入(東京書籍)		30,000	
広告収入(ホテルギンモンド)		20,000	
広告収入(共盛堂)		20,000	
合計		2,300,670	
<b>支出の部</b>			
沖縄同窓会へ寄付	301,030		
名簿発行費用	551,199		
ニューズレター第10号発行費用	197,245		
ニューズレター第11号発行費用	164,481		
総会出欠葉書代	98,800		
支部補助金	50,170		
事務経費(郵便代など)	49,135		
事務局経費(註)	120,000		
小計	1,532,060		
銀行口座	158,921		
郵便振替口座	373,334		
郵便振替口座(2)	69,700		
手持ち現金	166,655		
合計	2,300,670	2,300,670	
次年度への繰越金		768,610	

1993年12月11日

上記の通り相違ありません。

会 計 浜野 潔 (印)  
会計監査 鑑江龍一 (印)

(註) 事務局経費とは、事務局で使用した電話代、交通費、事務機器(コピー、ファックスなど)使用料などを月額1万円として計算したものです。(1991年12月21日幹事会において承認済)

名誉顧問	井深 大	ソニー(株)ファウンダー名誉会長
顧問	山下 勇	東日本旅客鉄道(株)代表取締役最高顧問
	小林陽太郎	富士ゼロックス(株)代表取締役会長
	竹内一樹	日本大学経済学部長
	高沢義行	ノルディックジャパン代表取締役
会長	川畑 泰	ジャパン・タイムズ報道部長
副会長	(総括)	
	三和義彦	野村総合研究所
	(事務局)	
	馬場房子	亜細亜大学経営学部教授
	(関西)	
	松井進平	同志社大学文学部教授
	(ニューズレター・名簿)	
	中村正枝	日本工学アカデミー事務局
担当幹事		
渉外	飯沼健真	読売新聞社研究調査本部長
	三浦 徹	横浜東急ホテル
組織	斎藤勝彦	石炭資源開発(株)取締役
	中田清一	青山学院大学国際政経学部教授
企画	太田幸夫	グラフィックデザイナー・多摩美術大学教授
	仲野英志	テキサスインスツルメンツ取締役事業本部長
広報	渡辺晴子	H.K.W.アジア新聞財団代表
事務局(業務)		
	神保尚武	早稲田大学商学部教授
事務局長・会計		
	浜野 潔	慶應義塾女子高等学校

## 沖縄でEWCA 地域大会催される

長い期間にわたり EWC 沖縄同窓会の方々が準備されてきた1993年 EWCA 地域大会 (Regional Conference) が、11月5日、6日の両日にわたり那覇市のパシフィックホテル沖縄で開催されました。EWC 沖縄同窓会が主催、イースト・ウエスト・センター、EWC 国際同友会、そして琉球新報が共催という形で、“Regional Development in the 21st Century: Think Globally, Act Locally” というテーマで開かれました。テレビを含む地元マスコミにも大々的に取り上げられ、沖縄の地域開発の経験を振り返り、アジア太平洋地域の発展を考える「地域開発に関するアジア太平洋地域会議沖縄大会」として琉球新報の一面に報じられました。沖縄タイムズはテーマについて、「イチャリバチョーデー(一回会えば兄弟姉妹)の精神をもって地球規模で考え、地域で行動する」と、主催者の意図をくんで、沖縄の言葉も交え報道していました。

スタッフを含め約300名が参加しましたが、うち約50名はアメリカ、台湾、インド、バングラデッシュ、フィリピン、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド等外国14カ国からの参加でした。本土からも、新潟、愛媛、山口、大阪、京都、愛知、東京等の各地からこの沖縄地域大会に参加のため馳せ参じました。

大会は、三味線(サンシン)、琴や太鼓の伴奏による「揚作田節(アギクテン節)」、「かぎやで風」という伝統的な祝いの曲の踊りで始まり、いかにも沖縄での大会という雰囲気盛り上がりしました。また沖縄やハワイの沖縄県人会の方々の講演を通し、外に開かれた交易国家としての琉球王国の歴史や文化、また移民や留学を通しての沖縄とハワイとの強い結びつきを肌で感じることが出来ました。また大会は始めから終わりまで、主催者の方々の Okinawan Hospitality によって運営されました。

歓迎のメッセージが大会委員長の琉球大学理学部・山里清教授(1962 ISI) からあり、イース

ト・ウエスト・センターの留学生による沖縄社会への貢献を強調されました。

大田昌秀沖縄県知事、リチャード・クリステンソン米国総領事、そして代読でしたが沖縄出身の上原康助沖縄開発庁長官らの挨拶がありました。イースト・ウエスト・センター同窓生(1973 EWCLI)である大田知事は、初日午後のセッションでも流暢な英語で“Education and Training”という題で琉球王国時代から現在までの沖縄における教育・留学・人材育成の歴史を述べられ、専門的知識と創造性をもって地域社会及び世界に貢献する人材を育成する県の施策を強調されました。琉球王国時代からアメリカ占領時代を含む戦後までの歴史資料を保存する公文書館の建設(1995年8月完成予定)についても話されました。挨拶の中では、1945年の3月下旬からの沖縄戦で亡くなった約20万人の人々の名前をすべて国籍に関係なく碑に刻む「平和の礎(いしじ)」計画についても述べられました。

基調講演は、“Towards the Pacific Century: The Role of Okinawa and Hawaii” という題で、沖縄出身の国際大学大学院アジアプログラム主任教授・嘉数啓(かずひろし)教授(1984 PIDP)によって行われました。まず、アジア・太平洋地域が世界の中で経済成長・発展の中心になっており、アメリカとアジア太平洋地域にとって今や経済問題が伝統的な軍事問題より重要になってきたことが指摘されました。ただ、急速に成長しつつある中国経済が地域貿易及び投資のバランスのみならず、地域の安全保障及び環境問題にもたらす影響について懸念が表明されました。沖縄については、アジア・太平洋地域からのアメリカ軍の緩やかな撤退の動きの中で、沖縄の米軍もいつかは撤退するであろうという見通しが述べられました。具体的提言として、台湾、沖縄、九州、上海を結ぶダイヤモンド平和貿易圏(Diamond Peace and Trade Zone)の建設が提唱されました。その核として沖縄全域を自由貿易ゾーンとし、一般商

品の交易・加工の関税自由化のみならず、金融、研究開発、技術移転の自由化を実現し、沖縄を日本と他のアジア諸国との経済的・文化的連結点とすることが提案されました。その一貫として嘉手納の米空軍基地をアメリカの日本およびアジア隣国への輸出基地に転換することが提案されました。ハワイについては、観光への依存から脱却するとすれば、通信、教育、研究開発というような付加価値の高い人材産業に向かうのが自然な方向であると指摘されました。

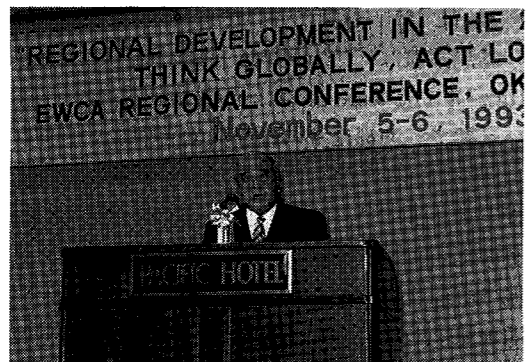
第1日目の午後の全体会議では、大田知事の講演の他に比嘉政昭・沖縄県環境保健部次長(ハワイ大学大学院修了)が、“Trends and Changes of Public Health Activities in Okinawa After World War II”という題で、宮城宏光(1963 ISI)・沖縄振興開発金融公庫副理事長が“Economic and Social Development of Okinawa After the Reversion”という題で講演をされました。

分科会は第2日目に1) Health and Welfare、2) Education and Training、3) Economics and

Industry、4) Natural Resources and Environmental Protection、5) English Education in the Pacific Region、6) How to Promote Better Relations Between the United States and Asia-Pacific nationsの6つに分かれて行われました。天然資源と環境保護の部会では沖縄にふさわしく、珊瑚礁に関するペーパーが、沖縄、グアム、インドネシア、シンガポール、タイの参加者より7つ提出されました。経済・産業の部会では、ASEAN(東南アジア諸国連合)、中国、沖縄におけるUターン労働者の雇用に関するペーパーが提出されました。

2日目の夜は「かりゆし(嘉利吉)」(さよなら、アロハ)ディナーがあり、石島英EWC沖縄同窓会会長より挨拶がありました。事務局、参加者全員で踊り(カチャーシー)となり、楽しく大会が終わりました。

この意義ある、すばらしい大会を準備、実行された沖縄の方々に心から感謝の意を表したいと思います。(報告 川畑泰)



大田知事講演



沖縄の伝統的踊り



全体会議

会費納入会員

1994.01.31現在

(61年度)  
橋本 光郎  
飯田 汲孝  
石島 英  
永井 健  
仲間 弘  
中司 哲  
上山 英一  
山口 正義

(62年度)  
橋本 貞雄  
北條 和明  
本間 恵子  
井門 義男  
木村 正史  
三原 正一  
太田 幹雄  
岡田 妙  
大山 綱夫  
崎山 昭治  
城間 理夫  
周藤 泰之  
田村 恭子  
富田 光彦  
宇佐美 雄司  
世嘉良 栄

(63年度)  
馬場 房子  
平敷 令治  
日比 敬介  
伊波 静男  
泉 清人  
金子 のぶ  
木村 力雄  
北 弘志  
久保田 晴彦  
宮内 猛  
村田 勝弘  
西村 嘉太郎  
野口 福次  
尾形 猛  
太田 秀夫  
斎藤 勝彦  
珠玖 佳久子  
須田 良雄  
武澤 信一  
田代 成義  
寺村 公男  
照屋 文雄  
徳永 淳三  
豊田 久承

内田 幸成  
矢野 安剛  
吉田 勝知  
吉田 和夫

(64年度)  
青井 潔  
富士 裕  
逸見 謙三  
池本 明  
稲葉 厚  
地阪 隆三  
上村 和子  
松本 正和  
湊 和夫  
門田 光雄  
村上 嘉一  
中村 正枝  
中野 圭二  
崎原 盛造  
真正 囊  
田中 一郎  
綿森 宣行

(65年度)  
福林 昌身  
飯塚 成彦  
石川 淑子  
金谷 茂  
大城 常彦  
斎藤 晃  
佐藤 貢  
清野 幸子  
真正 節子  
高橋 美和子  
滝来 啓子  
梅沢 時子  
遊道 安隆

(66年度)  
新垣 元助  
茅野 直子  
加藤 素男  
北野 康子  
国師 三起子  
宮城 文三  
迎町 路美子  
斎藤 康子  
坂下 昌朗  
柴野 章一郎  
高江洲 歳満  
恒川 京子

(67年度)  
安谷屋 健助  
芦田 友秀  
藤田 文子  
仲松 弥三郎  
小野 昭一  
角 桂余子  
山田 功  
柳沢 慧二  
安富 徳光

(68年度)  
石坂 和夫  
小武 秀男  
仲野 英志  
大城 信雄  
大城 進一  
塩入 激  
高梨 庸雄  
渡辺 偉夫  
屋比久 武

(69年度)  
土井 正生  
後藤 修三  
堀口 久生  
堀口 純子  
神保 尚武  
金田 道和  
松本 宣光  
三浦 徹  
太田 忠久  
斎藤 勝之  
宇留野 宗嗣  
横田 安夫

(70年度)  
笠井 逸子  
中田 清一  
大塚 尚夫  
鈴木 良子  
吉田 義法

(71年度)  
石原 滋  
川合 宏之  
斎藤 栄二  
菅原 通  
田村 光規  
椿 弘次  
土屋 圭造  
八木 近直  
矢島 尚和

吉田 恵美子  
(72年度)  
羽多野 正美  
小村 幹夫  
高島 昭一  
続木 芙美子

(73年度)  
加藤 十八  
大貫 昇  
田中 靖政

(74年度)  
後藤 和彦  
寛 壽雄  
中野 貞三  
野口 泰生  
坂本 悠貴雄  
杉田 稔  
田中 春美

(75年度)  
長谷川 浩一  
伊藤 達也  
川畑 泰  
中西 晃  
大坪 喜子  
佐伯 彰一

(77年度)  
今野 裕昭  
村川 行弘  
鈴木 胖  
渡辺 晴子

(78年度)  
太田 幸夫

(79年度)  
中山 行弘  
高遠 宏

(80年度)  
三和 義彦  
中山 恵津子  
野村 好弘

(81年度)  
藤木 典生  
塚本 良則  
大和 寛

(82年度)  
古橋 政子  
原 裕視  
林 泉美  
梅田 純一  
吉田 興亜

(83年度)  
後藤 昭八郎  
上川 陽子  
加藤 剛  
牧野 賢治  
永野 芳宣  
背黒 忠勝  
杉村 乾  
高桑 栄松

(84年度)  
阿部 喜三  
石田 雅近  
嘉数 啓  
西山 千  
塚田 守

(85年度)  
浜野 潔  
田中 勝邦  
津谷 典子  
横山 英世

(86年度)  
小浜 裕久

(88年度)  
衛藤 瀧吉  
今川 充  
中村 文隆

(90年度)  
田中 厚彦

## 会員の本の紹介

三和義彦著「米国のインドシナ外交」

(日本貿易振興会、平成5年12月、1,700円)

21世紀を目前にして、ベトナム経済は大きな注目を集めている。「ドイモイ」と呼ばれる自由化経済政策、高い教育水準をもつ7000万人の国民、海底油田に代表される豊富な資源は、いずれも西側経済界の熱い視線を浴びてきた。その中であって、米国は戦争捕虜・行方不明米兵問題を抱え、対越経済制裁を続けてきた。

本書は本会の前会長三和義彦氏が、長年ジャーナリストとして取り組んでこられた米国の対越政策について両国政府当局者への取材にもとづきまとめられたものである。著者は、戦争捕虜・行方不明米兵らの家族、それを後押しする議会関係者と米国企業の対越市場での乗り遅れを心配する経済界との対立を巧みに追いながら米国の対越国交正常化は近いと予測する。2月3日のクリントン大統領による対越禁輸解除声明は著者の予想の正しさを正に裏付けるものであった。

本書の副題は「環太平洋時代の援助の課題」であるが、冷戦終結後のアジアであって、日米の経済援助面での協力関係はきわめて重要である。その意味で米国の対外政策の分析は我国にも直接関係する問題として認識する必要性を本書から学ぶ必要があるだろう。(文責 浜野潔)

## 1994年度会費納入のお願い

今年度の会費のお振込をお願い申し上げます。会費は¥5,000です。関西・中部支部の会員からの会費は¥3,000を日本イーストウェストセンター同友会に、¥2,000を各所属支部に払い戻しておりますが、支部の会計幹事からは、¥2,000を直接支部宛振り込んで頂くと、手続き上の混乱がなく有難い、と連絡が来て居りますので御協力をお願いいたします。郵便局の振替用紙を同封いたしましたのでご利用下さい。

## 編集後記

政治改革法案はどうやら妥協案をもって国会を通りましたが、我が同友会の同胞でもある細川首相には厳しい年が明けました。EWCの同胞ではありませんが、旧ユーゴ担当として和平への努力を続けている国連の明石特別代表にも声援を送りたい気持です。同友会の活動というのも華々しい飛躍を期待するものではなく地道に実績を積み重ねて行くものというのが、ここ数年お手伝いをしてきた者の一人としての実感です。次の世代の方に引き継いでいただきたいと願いながらもなかなか活動に参加して下さる方は見つかりません。

編集子の友人関係のことながら、昨年末に1963年奨学生で政治学専攻の田代成義さんが急逝されました。あまりに急なことで心の整理がつかず、元気な間に友人との交友を深めたい気持ちにかられました。若い世代の会員にとっては、つまらぬ感傷でしょうか。皆様の健康をお祈りいたします。(MN)

## ニューズレター 第12号

編集発行 日本イーストウェストセンター同友会

編集者 中村正枝

発行者 川畑 泰

〒180 東京都武蔵野市境5-24-10

亜細亜大学馬場研究室内

電話 0422-54-3111 内線 2271

タナカ印刷株式会社